

確率変数の独立, 独立同分布

樋口さぶろお <https://hig3.net>

龍谷大学 先端理工学部 数理・情報科学課程

確率統計 I L08(2023-05-29 Mon)

最終更新: Time-stamp: "2023-05-29 Mon 11:26 JST hig"

今日の目標

- 確率変数の独立性を判定し利用できる
- 独立同分布の和の母平均値/母分散を計算できる

岩薩林 確率・統計 p.113, 定理 5.2

岩薩林 確率・統計 §3.3



L07-Q1

Quiz 解答: 条件付き分布

$$\textcircled{1} p_{Y|X}(0|9) = \frac{p(9,0)}{p_X(9)} = \frac{\frac{1}{6}}{\frac{1}{6} + \frac{1}{3}} = \frac{1}{3}.$$

$$\textcircled{2} p_{X|Y}(9|0) = \frac{p(9,0)}{p_Y(0)} = \frac{\frac{1}{6}}{\frac{1}{6} + \frac{1}{3} + \frac{1}{6}} = \frac{1}{4}.$$

L07-Q2,Q4

Quiz 解答: 同時分布・条件付き分布・周辺分布

$y \backslash x$	2	3	
20	3/12	1/12	4/12
30	4/12	4/12	8/12
	7/12	5/12	1

L07-Q3

L07-Q5

Quiz 解答: ベイズ推定

Y を色, X を当たり外れとすると,

$$\begin{aligned}
 & P(X = \text{当} | Y = \text{赤}) \\
 &= \frac{P(Y = \text{赤} | X = \text{当})P(X = \text{当})}{P(Y = \text{赤} | X = \text{当})P(X = \text{当}) + P(Y = \text{赤} | X = \text{外})P(X = \text{外})} \\
 &= \frac{\frac{1}{10} \cdot \frac{2}{10}}{\frac{1}{10} \cdot \frac{2}{10} + \frac{7}{10} \cdot \frac{8}{10}} = \frac{2}{58}.
 \end{aligned}$$

$Y \backslash X$	当たり	外れ
赤	$\frac{1}{10} \cdot \frac{2}{10}$	$\frac{7}{10} \cdot \frac{8}{10}$
白	$\frac{9}{10} \cdot \frac{2}{10}$	$\frac{3}{10} \cdot \frac{8}{10}$
合計	$\frac{2}{10}$	$\frac{8}{10}$

L07-Q6

Quiz 解答: ベイズ推定

検査 $Y = \begin{cases} 80 & (\text{陽性}) \\ 20 & (\text{陰性}) \end{cases}$, 病状 $X = \begin{cases} 100 & (\text{病気}) \\ 0 & (\text{病気でない}) \end{cases}$ で表す.

①

$$p_X(100) = 0.005, p_{Y|X}(80|100) = 0.99, p_{Y|X}(80|0) = 0.02$$

同時確率分布

$x \backslash y$	80	20	計
100	真陽性 0.99×0.005	偽陰性 0.01×0.005	0.005
0	偽陽性 0.02×0.995	真陰性 0.98×0.995	0.995

$$\begin{aligned}
 p_{X|Y}(100|80) &= \frac{p_{Y|X}(80|100) \times p_X(100)}{p_{Y|X}(80|100) \times p_X(100) + p_{Y|X}(80|0) \times p_X(0)} \\
 &= \frac{0.99 \times 0.005}{0.99 \times 0.005 + 0.02 \times 0.995} = 0.199185.
 \end{aligned}$$

$$② \quad 0.99^2 \cdot 0.005 / (0.99^2 \cdot 0.005 + 0.02^2 \cdot 0.995) = 0.924884.$$

ここまで来たよ

7 条件付き確率とベイズの公式

8 確率変数の独立, 独立同分布

- 確率変数の独立性
- 独立同分布

確率変数が「同じ」対「同分布」

2つの確率変数 X, Y .

X, Y は同じ 定義: $X = Y$, 各試行で同じ値.

- X, Y が同じ, ならば, 同分布 (次)
- 例: コイン 1 枚 (表 (1) の確率 $0 < p < 1$) を 1 回投げた結果に, 2 つの変数名 X, Y をつけた
- もちろん周辺分布は等しい
 $E[g(X)] = E[g(Y)]$.

$y \backslash x$	0	1
0	$1 - p$	0
1	0	p

X, Y は同分布 定義: 周辺分布が等しい $p_X(a) = p_Y(a)$.

- 「同じ」とはかぎらない
- $E[g(X)] = E[g(Y)]$.

$y \backslash x$	0	1
0	$1 - \frac{3}{2}p$	$\frac{1}{2}p$
1	$\frac{1}{2}p$	$\frac{1}{2}p$

X, Y は独立同分布

例: 形の同じ青色コイン X (表 p) と赤色コイン Y (表 q). $p = q$

$y \backslash x$	0	1	
0	$(1-p)(1-q)$	$p(1-q)$	$1-q$
1	$(1-p)q$	pq	q
	$1-p$	p	1

例

$y \backslash x$	0	1	
0	$4/9$	$2/9$	$2/3$
1	$2/9$	$1/9$	$1/3$
	$2/3$	$1/3$	1

独立: この形 ($p \neq q$ も可) \rightsquigarrow カモ

同分布: $p = q$

- X の確率が Y によらない. Y の確率が X によらない.
 - ▶ 条件付き分布 $p_{Y|X}(y|x) = p_Y(y)$. x の条件によらない.
 - ▶ 条件付き分布 $p_{X|Y}(x|y) = p_X(x)$. y の条件によらない.

確率変数の独立性 高校 数学 B

定義 (事象の独立性) 岩薩林 確率・統計 (2.14)p.40

事象 A, B が独立 (independent) とは次が成立すること.

$$P(A \cap B) = P(A) \times P(B)$$

定義 (確率変数の独立性) 岩薩林 確率・統計 (3.14)p.58

確率変数 X, Y が独立 (independent) とは次が成立すること.

$$p(x, y) = p_X(x) \times p_Y(y)$$

X, Y が独立とは

- すべての行 (周辺分布も) がベクトルとして平行. すべての列 (周辺分布も) がベクトルとして平行
- 条件付き確率が周辺分布に等しい
 $p_{X|Y}(x|何でも) = p_X(x)$, $p_{Y|X}(y|何でも) = p_Y(y)$.
- ベイズ推定は役立たない. 事前確率=事後確率.
- X, Y が互いに「無関係」であること
- 同時分布が, 周辺分布 **だけから (積で) 決まっちゃうこと**

独立である例

例

$y \backslash x$	0	1
10	4/9	2/9
11	2/9	1/9

例

赤白のサイコロを各 1 個振って, $X =$ 赤の目, $Y =$ 白の目.

例

下のカードから引いて, $X =$ 色, $Y =$ 数.

♥8 ♦8 ♦9

♠8 ♣8 ♣9

独立でない例

サイコロで, 目が 1-4 なら $X = 0$,

目が 5,6 なら $X = 1$.

例 1 $X = Y$. 確率変数 X, Y は同じ.

$y \backslash x$	0	1
0	$2/3$	0
1	0	$1/3$

例 2 例 1 の X , 同じサイコロの目で, 1-2 なら $Y = 1$, 3-6 なら $Y = 0$.

$y \backslash x$	0	1
0	$1/3$	$1/3$
1	$1/3$	0

命題 (独立と限らない2次元の確率分布の母期待値の性質)

高校 数学 B 岩薩林 確率・統計 (3.17)p.61 確率統計 I(2023)L06

$$E[g_1(X, Y) + g_2(X, Y)] = E[g_1(X, Y)] + E[g_2(X, Y)] \quad (\text{E5})$$

$$\text{特に } E[X + Y] = E[X] + E[Y] \quad (\text{E6}, (3.17))$$

$$E[g_1(X) \times g_2(Y)] \neq E[g_1(X)] \times E[g_2(Y)] \quad (8.1)$$

$$\text{母共分散 } \text{Cov}[X, Y] \stackrel{\text{定義}}{=} E[(X - \mu_X)(Y - \mu_Y)] \quad (3.19)$$

$$= E[XY] - E[X] \times E[Y]. \quad (\text{C1}, (3.20))$$

L08-Q1

Quiz(2次元の独立でない確率変数の母期待値)

確率変数 X, Y について, $E[X] = 3, E[X^2] = 16, E[Y] = 10, E[Y^2] = 102, E[XY] = 25$ が成立する. 次の量を求めよう.

- ① $E[(X + 2)(Y + 3)]$
- ② $\text{Cov}[X, Y]$

命題 (X, Y が独立のとき成立するいい性質)

岩薩林 確率・統計 (3.18)p.61

$$E[g_1(X) \times g_2(Y)] = E[g_1(X)] \times E[g_2(Y)] \quad (\text{IE1})$$

$$\text{特に } E[XY] = E[X] \times E[Y] \quad (\text{IE2}, (3.18))$$

$$0 = \text{Cov}[X, Y] = E[XY] - E[X] \times E[Y], \quad (\text{IC1}, (3.21))$$

$$V[g_1(X) + g_2(Y)] = V[g_1(X)] + V[g_2(Y)] \quad \text{岩薩林 確率・統計 (3.21)p.63} \quad (\text{IC2})$$

$$\text{特に } V[X + Y] = V[X] + V[Y] \quad \text{岩薩林 確率・統計 (3.21)p.63} \quad (\text{IC3}, (3.21))$$

$$V[aX + bY + c] = a^2V[X] + b^2V[Y] \quad (\text{IC4})$$

Cov は「独立でない度」, ただし,

IC1, IC3, IC4 は, 独立でなくても $\text{Cov}[X, Y] = 0$ だけで成り立つ.

$\text{Cov}[X, Y] = 0$ は独立の **必要条件** (だが **十分条件** ではない)

一部の証明連続型で書くけど, $\int \rightarrow \sum$ で離散型でも同様.

$$\begin{aligned}
 \mathbb{E}[g_1(X) \cdot g_2(Y)] &= \iint g_1(x)g_2(y) \cdot f(x, y) dy dx \\
 &\stackrel{\text{独立}}{=} \iint g_1(x)g_2(y) \cdot f_X(x) \times f_Y(y) dy dx \\
 &= \int g_1(x)f_X(x) \left(\int g_2(y) \cdot f_Y(y) dy \right) dx \\
 &= \mathbb{E}[g_1(X)] \times \mathbb{E}[g_2(Y)]
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 \mathbb{V}[X + Y] &\stackrel{\text{V1}}{=} \mathbb{E}[(X + Y)^2] - \mathbb{E}[X + Y]^2 \\
 &\stackrel{\text{E6}}{=} \mathbb{E}[X^2] + 2\mathbb{E}[XY] + \mathbb{E}[Y^2] - (\mathbb{E}[X]^2 + 2\mathbb{E}[X]\mathbb{E}[Y] + \mathbb{E}[Y]^2) \\
 &\stackrel{\text{V1, C1}}{=} \mathbb{V}[X] + 2\text{Cov}[X, Y] + \mathbb{V}[Y] \\
 &\stackrel{\text{IC1}}{=} \mathbb{V}[X] + 0 + \mathbb{V}[Y]
 \end{aligned}$$

L08-Q2

Quiz(独立な確率変数の母期待値)

独立な確率変数 X, Y を考える.

$E[X] = 2, E[Y] = 3, V[X] = 5, V[Y] = 11$ である.

- ① 母期待値 $E[XY]$ を求めよう.
- ② 母共分散 $\text{Cov}[X, Y]$ を求めよう.
- ③ $E[(-2X + 3Y)(X + 5Y)]$ を求めよう.
- ④ $V[-2X + 3Y]$ を求めよう.

岩薩林 確率・統計 問題 6(p.64)

岩薩林 確率・統計 第 3 章練習問題 2(p.73)

岩薩林 確率・統計 第 3 章練習問題 5(p.73)

ここまで来たよ

7 条件付き確率とベイズの公式

8 確率変数の独立, 独立同分布

- 確率変数の独立性
- 独立同分布

独立同分布

定義 (独立同分布 (i.i.d.) 岩薩林 確率・統計 定理 4.2(p.87) の仮定, p.113)

離散型/連続型確率変数 X_1, X_2, \dots, X_n が, たがいに独立で, 同分布 (同じ周辺分布 $p_{X_i}(x_i) = p(x)$ を持つとする).

このとき X_1, \dots, X_n は独立同分布に従う (i.i.d.=independent and identically-distributed) という.

母期待値も共通になる. $E[X_i] = \mu, V[X_i] = \sigma^2$.

例: 同じ形の n 色のサイコロ. X_1 =青色, X_2 =緑色, \dots .

L08-Q3

Quiz(同分布の確率母期待値母分散)

X_1, X_2 は同分布にしたがう確率変数で, コインの表 (1) 裏 (0) を表す. 確率関数は,

$$p_{X_i x_i} = \begin{cases} 1-p & (x=0) \\ p & (x=1) \end{cases},$$

母平均値・母分散は

$$E[X_i^k] = 0^k \cdot (1-p) + 1^k \cdot p = p, V[X_i] = E[X_i^2] - E[X_i]^2 = p - p^2.$$

- ① $X_1 = X_2$ であるとき (1枚のコインに2個の名前をつけたとき),
 - ① 確率 $P(X_1 = X_2 = 1)$ を求めよう.
 - ② 母平均値 $E[X_1 + X_2]$ を求めよう.
 - ③ 母分散 $V[X_1 + X_2]$ を求めよう.
 - ④ 母共分散 $\text{Cov}[X_1 + X_2]$ を求めよう.
- ② X_1, X_2 が独立であるとき (形は同じだが色の違う別々のコインであるとき),
 - ① 確率 $P(X_1 = X_2 = 1)$ を求めよう.
 - ② 母平均値 $E[X_1 + X_2]$ を求めよう.
 - ③ 母分散 $V[X_1 + X_2]$ を求めよう.
 - ④ 母共分散 $\text{Cov}[X_1 + X_2]$ を求めよう.

L08-Q4

Quiz(独立同分布の母期待値母分散)

確率変数 X_1, X_2, X_3 は独立同分布に従い, $E[X_i] = \mu, V[X_i] = \sigma^2$ とする.
次の母期待値, 母分散を μ と σ^2 で表そう.

- ① $E[X_1 + X_1 + X_1]$
- ② $E[X_1 + X_2 + X_3]$
- ③ $E[X_1 + X_1 + X_2]$
- ④ $V[X_1 + X_1 + X_1]$
- ⑤ $V[X_1 + X_2 + X_3]$
- ⑥ $V[X_1 + X_1 + X_2]$
- ⑦ $E[(X_1 + X_2 + X_3)^2]$